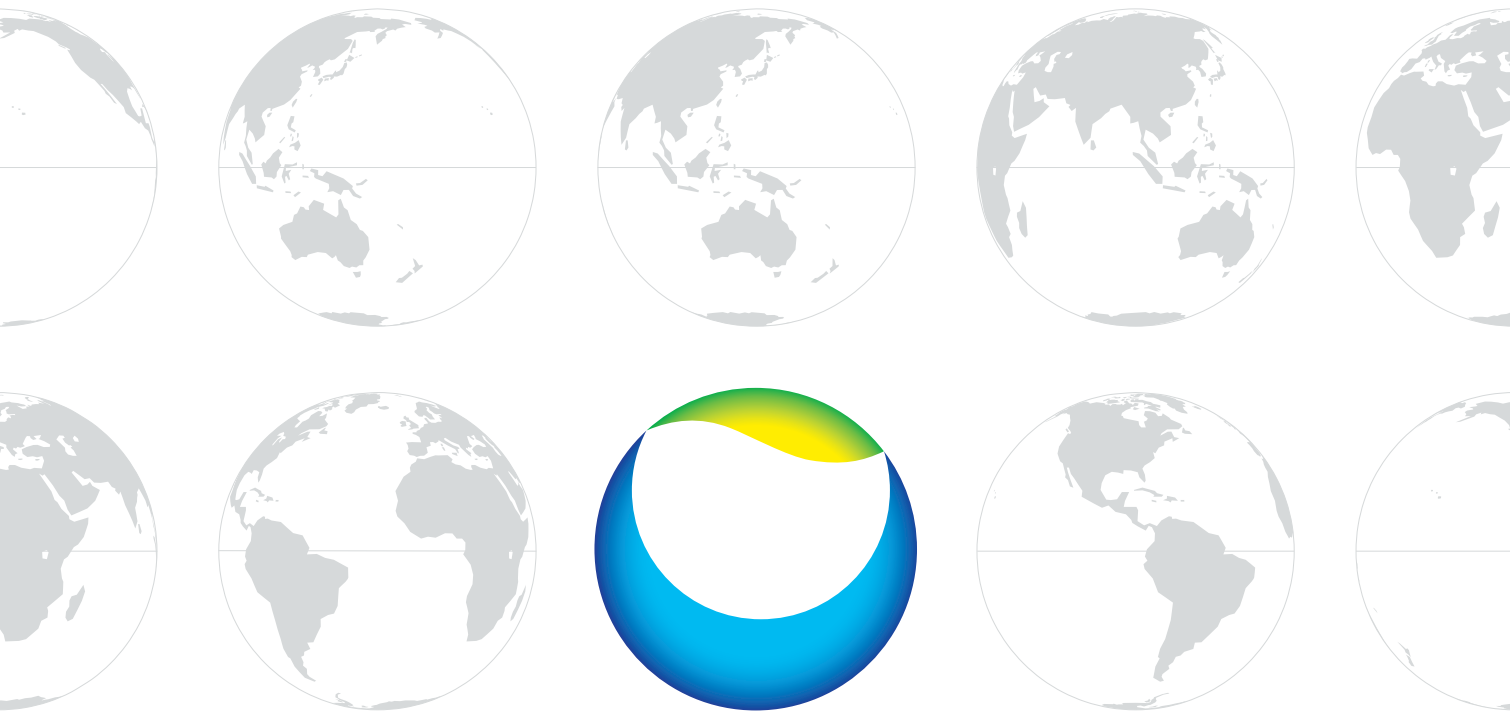


第一三共から株主の皆様へ



Daiichi-Sankyo

IR Report 2005

第1期事業報告書 2005年9月28日～2006年3月31日

第一三共株式会社

第一三共グループが目指すもの

第一三共は
世界市場をベースとした
企業の優位性と強みの最大化を図りながら、
「日本発の Global Pharma Innovator」
を目指してまいります。



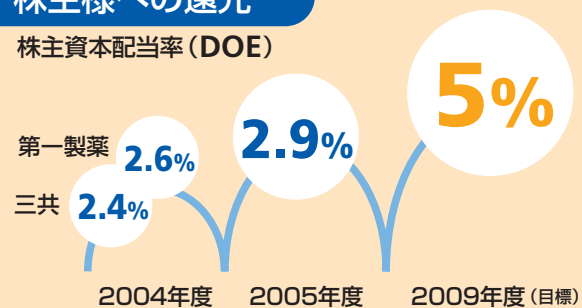
統合シナジー



2007年4月に完全統合を実現し、併せて業界最高水準の事業運営効率を確立します。これらのシナジーを最大化して高い収益性と成長性を築き、未来に無限の可能性を開きます。

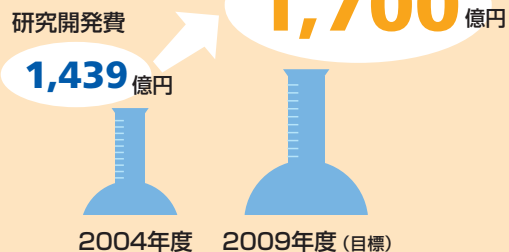
株主様への還元

株主資本配当率 (DOE)



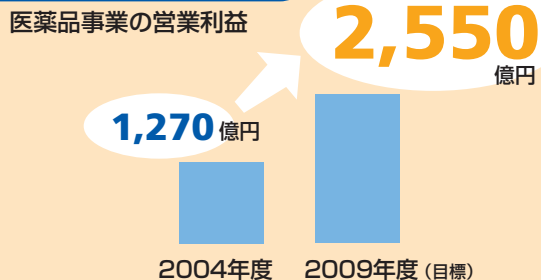
業績や資本効率の観点を反映した利益還元を重視するとともに、今後の成長戦略展開に備え、内部留保の充実などを総合的に勘案し、利益配分を決定してまいります。配当につきましては2009年度に株主資本配当率 (DOE) 5%の達成を中期的な目標に掲げ、安定的増額を図ってまいります。また、自己株式の取得も機動的に実施してまいります。

研究開発力



豊富な重点領域の開発品目について優先付けを行い、経営資源を集中することで開発スピードを向上させていきます。必要な研究開発費も積極的に増加させていきます。

収益力



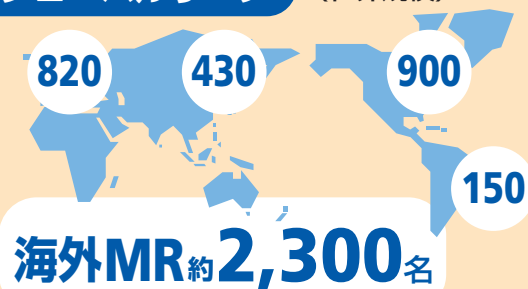
国内外での既存主力品の販売により、高い収益力を有しています。今後、事業を医薬品事業に特化するとともに、革新的新薬のグローバルな開発・販売、業界最高水準の事業運営効率により、収益力を倍加していきます。

国内販売力



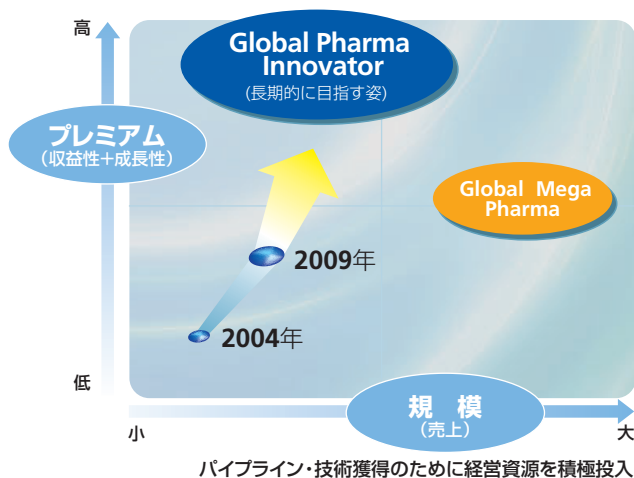
トップレベルのシェアを有する製品構成、質の高い2,500名を超えるMR（医薬情報担当者）によるディテール（医師への医薬品の説明）活動や医薬品卸会社との連携を重視した流通戦略など、国内市場で圧倒的な販売力を実現していきます。

グローバルリーチ（世界規模）



海外のMR（医薬情報担当者）は、欧米を中心に全体で約2,300名が活動し、33の拠点が構築されています。今後は、米国を中心に自社開発・自社販売による飛躍的成長を目指し、海外の開発・営業拠点の拡充を図ります。

株主の皆様へ



第一三共は、売上規模の拡大のみを目指すのではなく、革新的な医療用医薬品の創出を継続することで、重要な領域でナンバーワンのプレゼンスをもつ「高収益型 & 成長性をもつプレミアム型企業」として飛躍的な向上を目指していきます。

私ども第一三共株式会社は、「日本発の Global Pharma Innovator=グローバル創薬型企業」として、2005年9月28日に世界市場での新たな挑戦の第一歩を踏み出しました。

経営統合に至るまでの両社は、ともに革新的な新薬創出力をもつ日本有数の製薬企業として成長してまいりました。しかし、今後のグローバル市場において有力な地位を占めていくためには、より先進的な創薬力の装備と、効率性の高い企業運営が必要となります。

そこで両社の経営資源を統合し、国内外での確固たる存在価値と卓越した競争力を構築することにより、高い利益成長を実現し、ステークホルダー（株主の皆様、お客様、従業員、社会など）すべてに関わる企業価値を最大化させていくことを決意した次第です。既にその後の統合スケジュールも順調に進み、理想とする体制を着々と整えつつあります。

今後もミクロとマクロの両視点から事業を推進し、患者様と医療関係の皆様への医療ニーズにお応えした、革新的な製品とサービスの創出を継続してまいります。

何卒、変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

シナジーを最大化して「新薬創出」の開発スピードを加速。
「日本発の Global Pharma Innovator」を実現していきます。

Development power

開発力の増強と加速

■ 新薬創出能力の向上を目指し

研究開発費 1,700 億円へ（2009 年目標）

昨年 9 月から経営統合へ踏み出して半年が経過しますが、医薬品事業の連結営業利益で統合効果を見ると、売上シナジーとコストシナジーをあわせて 2007 年度で 670 億円、2009 年度には 930 億円のシナジーが見込まれます。第一三共は、この大きなシナジーを活用して、研究開発投資を大幅に上乗せし、グローバル創薬型企業構築への歩みを着実に進めたいと考えております。当期の研究開発費は 1,587 億円ですが、2009 年度にはこれを 1,700 億円にまで引き上げたいと考えております。

■ 最優先開発プロジェクトにより 「5 品目」を選定して研究開発

私どもでは重点領域を中心に、大型製品の継続的な市場投入を見込むことができるシームレスで厚みのある開発パイプラインを構成することができました。研究開発品目の優先順位は、グローバル R&D 意思決定会議体である「GEMRAD」によって評価されます。その結果、現在は 5 つの品目が選定され開発プロジェクトが始動しています。循環器では抗血小板剤プラスグレレル（CS-747）をはじめ、抗 Xa 剤（抗凝固剤）DU-176b、オルメサルタンとアムロジピンの配合剤 CS-8663、またタキサン誘導体（抗癌剤）DJ-927、抗血小板剤 DZ-697b の 5 品目です。今後もスムーズな意思決定による優先付けを行い、より効率の良い研究開発を行ってまいります。

■ 最優先開発プロジェクト

プロジェクト名	適応予定、剤名等	
プラスグレレル (CS-747)	抗血小板剤	イーライ・リリー社と共同開発中の血小板凝集阻害剤。フェーズ I 試験では優れたプロファイルが示唆され、強力な血小板凝集抑制作用をもち、早く安定した薬効を発現。2007 年後半申請予定。
DU-176b	抗 Xa 剤（抗凝固剤）	血液凝固第 Xa 因子阻害剤。ヒト経口投与試験により、トロンピン生成が用量相関的に抑制されることを確認。また、トキシコゲノムを含む非臨床試験で確認できた低い肝毒性を、臨床試験でも確認。現在、フェーズ II b 試験を準備中。目標効能：心房細動に伴う心房性脳梗塞の予防、静脈血栓塞栓症の予防・治療。
CS-8663	オルメサルタンとアムロジピンの配合剤	カルシウム拮抗剤アムロジピンとアンジオテンシン II 受容体拮抗剤オルメサルタンとの配合剤。現在、フェーズ III 試験実施中。目標効能：各単剤で効果不十分な高血圧患者の二次治療。
DJ-927	タキサン誘導体（抗癌剤）	次世代タキサン系抗癌剤。経口投与で優れた抗腫瘍効果があり、排泄されにくく、大腸癌等の多剤耐性株にも有効。末梢神経毒性の懸念が少ない。
DZ-697b	抗血小板剤	早いオンセットで、長い抑制効果をもち、コラーゲンやリストセチン、すり応力で引き起こされる血小板凝集を抑制。高投与量でも出血時間の増加を伴わない。血小板凝集を新規メカニズムにより阻害する。臨床試験について脳梗塞と心血管疾患で FDA 合意。主要な目標効能：脳梗塞、急性冠動脈症候群、微小循環障害。

世界における「競争力」と「収益性」を飛躍させる第一三共の強力

World strategy

世界市場への戦略

世界市場でのプレゼンスを高める 営業拠点・開発拠点の統合

世界市場における第一三共のプレゼンスを高めていくうえで、両社の事業・開発力を統合・強化していくことは、極めて重要な取り組みになります。既に米国・欧州においては、2006年4月に営業・開発拠点の統合を完了しました。米国においては営業部門のヘッドオフィスをニュージャージー州のパーシパニー、開発部門のヘッドオフィスを同じくニュージャージー州のエジソンに設置しています。また欧州では、ロンドンに開発拠点を、ミュンヘンを中心とした欧州各国に営業拠点を設置しています。加えて世界各国に約2,300名にのぼる優秀なMRを配置しました。質の高いディテールを伴った強力な普及活動が展開されています。

自社開発・自社販売により 海外での飛躍的な収益性向上を

医薬品事業の展開には、「導出」「共同」「自社」の方法があります。「導出」「共同」とは、医薬品開発・販売において他社資源を活用する展開方法であり、業界では、医薬品の早期普及や開発・販売リスク回避を目的として、一般的に行われています。しかし収益回収の点では、「自社」、つまり自社開発・自社販売が最も効果が高いとされています。これまで私どもは、高脂血症治療剤**メバロチン**、広範囲経口抗菌製剤**クラビット**など世界に誇る新薬を創出してきたにも関わらず、海外では企業規模の制約などから、最も収益性の高い「自社開発・自社販売」を選択することができませんでした。統合により、自社開発・自社販売を選択することが可能になるため、今後は、海外戦略において飛躍的な収益性向上が見込まれます。



なプレゼンス。

Sales management

国内市場販売力の最大化

国内事業のコラボレーションを開始 オルメテック・クラビットの 共同販売促進活動を開始

国内事業におけるコラボレーション体制を強化していくことが、今後のシナジーを加速するうえで重要な課題だと考えています。既に2005年10月からは本格的な三共、第一製薬の協力体制を始動させており、2005年11月には、三共の主力製品である血圧降下剤**オルメテック**について第一製薬のMRによる情報提供が開始されました。これにより、第一三共グループの総勢2,500名体制を敷いた事業が推進されております。既に共同販売促進による処方箋の事例報告を多数受けており、国内市場における販売体制強化の成果は、着々と上がってきております。また、2006年4月より、第一製薬の主力製品である広範囲経口抗菌剤**クラビット**の共同販売促進活動も開始いたしました。今後もさらなる業績の向上を目指し、両社の協力体制を拡充してまいります。

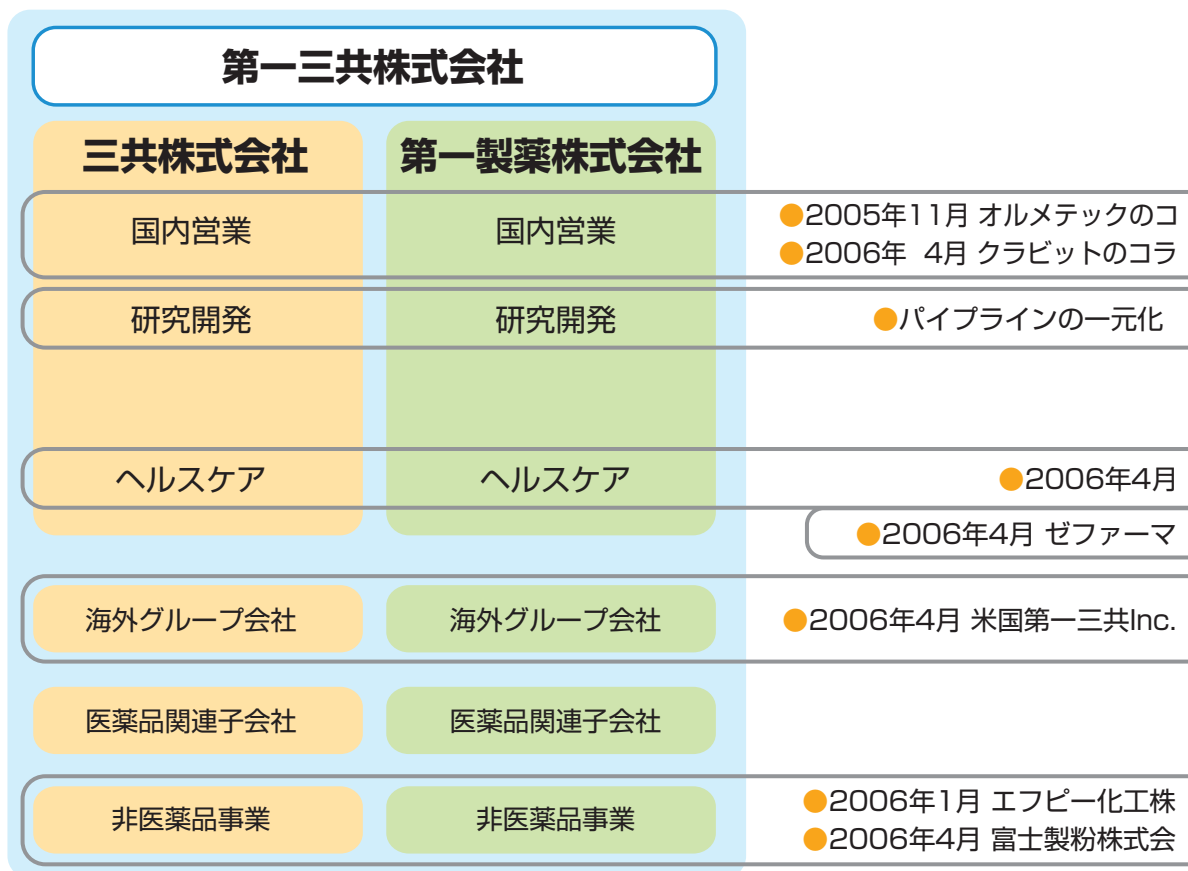
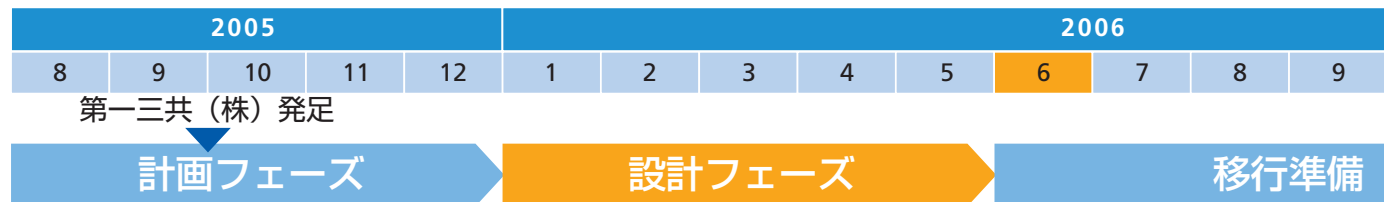


国内製薬企業トップクラスの 売上高を「成長性」につなげる

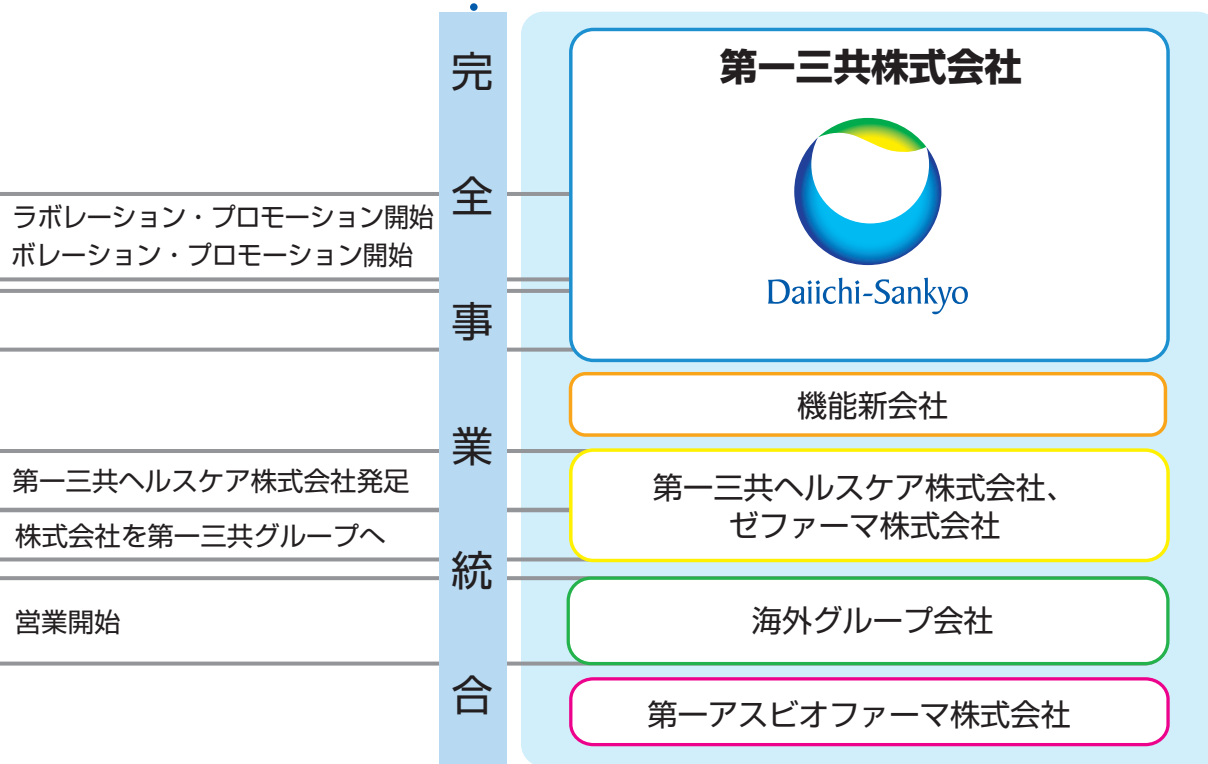
第一三共の医療用医薬品には国内トップレベルの売上高を誇る製品が数多くあります。たとえば高脂血症治療剤の**メバロチン**は、1,432億円を売り上げ、**クラビット**は976億円に達しています。またX線造影剤の**オムニパーク**は347億円の売上高となりました（いずれも2005年3月期 国内・輸出）。統合が進み販売体制が拡充・強化されることにより、これら主力製品の売上高のさらなる伸長が見込まれます。しかしながら、最も大切なことは、売上規模の拡大のみではなく“長期的な視点からの収益性と成長性をいかにつくりあげるか”にあります。それこそが私どもが目指す「Global Pharma Innovator」の本意と心得ております。今後も統合による効率化とパワーを倍加させ、尽力してまいります。

統合の状況について

経営統合につきましては、先行して実施可能な課題について、既に本年4月までに下記内容（●印）を実施しております。完全事業統合については、スケジュールに従い、2007年3月末を目処にフェーズを分けて鋭意取り組んでおります。



			2007				2008
10	11	12	1	2	3	4~12	1~3



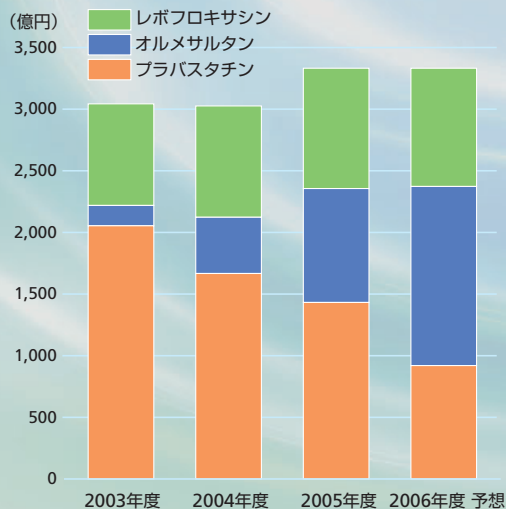
式会社の株式売却
社の非連結化、アサヒビール株式会社による和光堂株式会社株式のTOBIに応募

主な製品の動向

■ 主要3製品について

第一三共の医療用医薬品のラインアップは、業界でもトップクラスを誇ります。いずれも高い販売力と競争力を有していますが、ことに主要製品として位置付けている医薬品は、今後の戦略展開や事業推進において大きな役割を果たすものです。確固たる収益基盤を築く“基幹製品”として、今後もさらなる成長を果たします。

■ 第一三共グループ 主力3製品の推移



合計	3,043	3,026	3,332	3,332
レボフロキサシン	824	903	976	→ 959
オルメサルタン	165	456	924	↗ 1,453
プラバスタチン	2,054	1,667	1,432	↘ 920

(単位：億円)

クラビット

広範囲経口抗菌製剤**クラビット**（一般名：レボフロキサシン）は、ニューキノロン系の経口抗菌製剤であり、優れた有効性と高い安全性が認められております。

1993年に日本国内において発売して以来、その強い抗菌力と適応症の広さの訴求により、多くの感染症に対し有効な薬剤として医療現場に定着し、現在、世界115か国（※1）で発売され、延べ4億人以上の患者さんに使用されております。

とくにレスピラトリーキノロン（※2）に位置付けられる**クラビット**は、呼吸器感染症領域における豊富な学術情報により医療現場において高い医療満足度をもたらし、ニューキノロン市場におけるマーケットリーダーの地位を堅持しています。

（※1）欧米等他社との提携により別ブランド名で販売している国を含みます。

（※2）肺炎等の呼吸器感染症に対して高い有効性を示すキノロン系抗菌剤。



オルメテック

血圧降下剤**オルメテック**（日本・欧州製品名、米国製品名：**ベニカー**、一般名：オルメサルタン）は、アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤であり、同系他剤と比較して降圧効果が最も強く、優れた臓器保護作用が期待できる薬剤です。

アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤は、比較的新しいタイプの薬剤で、降圧作用の強さ、安全性の高さ等から世界中で売上規模が急速に拡大しています。

オルメサルタンは、2002年5月に米国で発売して以来、2002年10月にドイツ、2004年5月に日本と、現在までに世界36か国で発売されております。米国では子会社の第一三共 Inc.、欧州では同じく子会社の三共ファルマ GmbH が販売しており、2006年3月期で既にグローバル売上高900億円を超えております。早期に2,000億円を目指してまいります。



メバロチン

高脂血症治療剤**メバロチン**（一般名：プラバスタチン）は、世界初のHMG-CoA還元酵素阻害剤として1989年に発売以来、高コレステロール血症治療、心筋梗塞の予防に貢献しており、約100か国で販売されている薬剤です。これまでの数々のエビデンス（※3）に加え、昨年11月には日本人を対象とした大規模臨床試験「MEGA Study」が発表され、**メバロチン**の高い安全性、効果が証明されました。

しかしながら、日本をはじめ、欧州各国での特許切れに続き、本年4月には米国において特許切れを迎えました。今後は、高脂血症領域でのリーディングカンパニーとして、国内市場を中心に、これまで培ったノウハウやエビデンスを活用した質の高い情報提供を行ってまいります。

（※3）学会等で認められた薬剤に関する学術的文献等。



研究開発の状況

開発パイプライン（ステージ別）

開発パイプライン管理の一元化により、開発品目の優先順位付けなど、意思決定のスピードを格段に向上させています。また技術的・コスト的シナジーを最大化させ、重点領域である循環器・糖代謝・感染症・癌領域などで効率的な研究開発を継続し、他社に先駆けた“大型製品の市場投入”を可能にしています。

※ Phase II 以上を掲載 ※ ☆は効能追加、剤形追加など



■ 循環器

欧米	Pravachol/Mevalotin Benicar/Olmetec WelChol	HGF 遺伝子プラスミド（末梢性血管疾患） DU-176b（経口抗 Xa 剤） SUN 4936h （急性心不全治療剤/Astellas Pharma US に導出） CS-9803（テルタ PKC 阻害剤）	CS-747 （抗血小板剤） ☆ CS-8663 （オルメサルタンとアムロジピンの配合剤）	
日本	メバロチン、パナルジン、アーチスト、 エースコール、サンリズム、コバシル、 オルメテック、ハンブ、カルブロック、 リパロ、カプトリル、スロンノン	DU-176b（経口抗 Xa 剤） ☆ CS-866RN （オルメサルタン/慢性糸球体腎炎） ☆ CS-866CMB （オルメサルタンとヒドロクロロチアジドの配合剤） ☆ CS-866AZ （オルメサルタンとアゼルニジピンの配合剤）	HGF 遺伝子プラスミド （末梢性血管疾患） ☆ CS-866DM （オルメサルタン/糖尿病性腎症）	

■ 糖代謝

欧米		CS-011（グリタゾン系） CS-917（糖新生阻害）	☆ WelChol DM（糖尿病）	
日本	ファスティック			

■ 感染症

欧米	LEVAQUIN/Tavanic FROXIN Otic BANAN	DU-6859ainj （ニューキノロン剤/注射/米国） CS-023 （カルバペネム系抗生物質/ロシュ社に導出）		SUN A0026 （ベネム系抗生物質/レブリダインが 申請中/北米）
日本	クラビット、カルベニン、パナン	CS-023（カルバペネム系抗生物質）	DU-6859a（ニューキノロン剤/経口）	DF-098 （Hib ワクチン/申請中）

ご参考	Phase I	Phase II	Phase III	申請
	少数の健康人を対象とした安全性、薬物の吸収、分布、代謝、排泄などを検討する試験。	対象疾患の少数の患者において安全性を最重点にしつつ、用法、用量の検討、有効性を検討する試験。	拡大臨床試験といわれ、数百から数千の患者を対象に有効性と安全性の確認が行われ、有用性を確認する試験。	有用性が確認されたものだけが新薬の製造販売承認の申請がなされます。



■ 癌

欧米	camptoser	DJ-927 (癌化学療法剤/タキサン誘導体)		
日本	トボテシン、クレスチン			

■ 免疫アレルギー

日本	ジルテック	CS-712 (スギ花粉症)		
----	-------	----------------	--	--

■ 骨・関節/その他

欧米	Venofor Evoxac	CS-706 (COX-2 阻害剤) SUN N4057 (脳梗塞急性期治療剤) CS-088 (緑内障/参天製薬株と共同開発)	SUN0588r (高フェニルアラニン血症/Biomarin に導出/米国)	
日本	オムニパーク、ロキソニン、 クレメジン、ザンタック、 モービック、オムニスキャン、 フエロン、ケルナック、 ノイエル、エボザック、 アデノスキャン、 ミルタックス	CS-088 (緑内障/参天製薬株と共同開発) SUN E3001 (骨粗鬆症治療剤/中外製薬株に導出)	☆ CS-600G (ロキソプロフェンゲル製剤/PⅢ準備中) SUN Y7017 (軽度・中等度及び高度アルツハイマー型認知症) ☆ DL-8234 (フエロン効追/C型慢性肝炎/リバリン併用療法) ☆ CS-1401E (麻酔用鎮痛)	☆ロキソニンパップ (剤追/消炎鎮痛剤/上市) ギャバロン髄注 (抗痙縮剤/上市) ユリーフ (排尿障害改善剤/上市) ☆フエロン (効追/C型代償性肝硬変/承認済) DD-723 (超音波造影剤/申請中)
中国		KMD-3213 (排尿障害改善剤)		

開発初期のプロジェクト数 (Phase I、前臨床) 総数：26 [循環器6、糖代謝2、感染症6、癌3、免疫アレルギー3、骨・関節/その他6]

■ 新製品情報

ユリーフ®

キッセイ薬品工業株式会社と第一製薬株式会社共同開発した、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善選択的α1A遮断薬(2006年5月11日発売)。前立腺に主に存在するα1A受容体サブタイプを選択的にブロックすることにより、緊張を取り除いて尿道抵抗を投与早期から有意に改善し、前立腺肥大症に伴う排尿障害を改善。薬価基準収載においては、有用性加算(II)が適用されました。患者様のQOLの向上に大きく貢献することを期待しています。



ロキソニン® パップ

リードケミカル株式会社と三共株式会社が共同開発した、経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤(2006年5月23日発売)。経口の鎮痛・抗炎症剤のトップブランドである「ロキソニン®錠、同細粒」と同成分の水溶性貼付剤で、非ステロイド性抗炎症薬含有パップ剤では初めての1日1回用法のため、コンプライアンスの向上を期待しています。



決算の状況について

■ 全般的な概況

売上高

9,259 億円

営業利益

1,547 億円

経常利益

1,597 億円

当期純利益

876 億円

海外売上高比率
(対売上高)

33.2%

研究開発費比率
(対売上高)

17.1%

当社は、2005（平成17）年9月28日に、株式移転により共同持株会社として設立されました。従いまして、当期が第1期となりますので、前期との比較は行っておりません。なお、当期の業績は、三共株式会社及び第一製薬株式会社の平成17年4月1日から平成18年3月31日までの連結業績に当社の平成17年9月28日から平成18年3月31日までの業績を加えたものとなります。

世界の医薬品市場は米国市場が牽引し一定の成長を続けているものの、市場のボーダレス化、新薬開発の厳格化が一層進展し、グローバルメガ企業による研究開発面、販売面での熾烈な企業間競争が繰り広げられています。日本市場においても、国立大学病院の独立行政法人化、入院医療費包括評価制度の採用施設増加など医療費抑制策が浸透するとともに、台頭著しい外資系メーカーをはじめとする大手製薬メーカーとの企業間競争が激化し、経営環境はなお一層厳しさを増しています。

当社グループは有効性と安全性に関する情報提供を的確に実施し、医薬品の適正使用を基本としたマーケティング活動を展開した結果、第1期にあたる当連結会計年度において、売上高は、9,259億円となりました。国内では、血圧降下剤**オルメテック**、**カルブロック**、広範囲経口抗菌製剤**クラビット**、高血圧・狭心症・慢性心不全治療剤**アーチスト**などが、また、海外では、合成抗菌剤**レボフロキサシン原薬**、血圧降下剤**ベニカー**（北米）・**オルメテック**（欧州）などが寄与しました。

利益面においては、品質・技術レベルの向上とコスト低減策を推進し、売上原価2,907億円（原価率31.4%）、販売費及び一般管理費4,804億円（うち研究開発費1,587億円）を計上し、営業利益は、1,547億円、経常利益は、1,597億円となりました。

特別損失において、事業統合関連損失98億円、遊休固定資産に係る減損損失52億円等を計上した結果、当期純利益は876億円となりました。

■ セグメント別の概況

医薬品事業

売上高 7,846 億円

営業利益 1,481 億円

国内医療用医薬品では、後発医薬品の使用促進策が強化されるなど医療費抑制策が一段と浸透し、さらには平成 18 年 4 月の業界平均 6.7% に及び薬価改定を控え、不透明な市場環境のもと推移しました。

このような市場環境の中で、高脂血症治療剤**メバロチン**が低調に推移したものの、広範囲経口抗菌剤**クラビット**、血圧降下剤**オルメテック**などの伸長に加え、抗血小板剤**プラビックス**の製造販売承認に伴う一時金収入の寄与もあり、売上高は、4,314 億円となりました。

海外医療用医薬品では、欧州での特許切れ及び米国での競争激化の影響で高脂血症治療剤**プラバスタチン原薬**が低調でしたが、血圧降下剤**ベニカー**（米国）・**オルメテック**（欧州）が大幅に伸長、合成抗菌剤**レボフロキサシン原薬**も堅調に推移し、円安傾向による為替差益の発生もあり、売上高は、2,895 億円となりました。

ヘルスケア品では、市場が伸び悩む中、競合品の参入などにより発毛促進医薬品**カロヤンガッシュ**、ビタミンC主薬製剤**システィナC**などが低調でしたが、医療用医薬品成分のスイッチ OTC 薬である水虫・たむし治療剤**ラミシール AT**が好調に推移したことなどにより、売上高は、279 億円となりました。

その他の事業

売上高 1,412 億円

営業利益 61 億円

当社グループは、経営資源を医薬品事業に集中させるため、非医薬品事業の自立化を進め、一層の経営効率化を図ってまいります。



高脂血症治療剤メバロチン



広範囲経口抗菌剤クラビット



血圧降下剤オルメテック



血圧降下剤カルプロック



高血圧・狭心症・慢性心不全治療剤アーチスト



水虫・たむし治療剤ラミシール AT

※セグメント別の売上高は、外部顧客に対するものです。

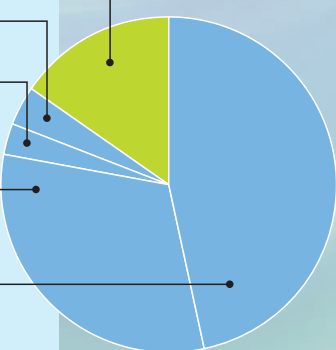
連結決算をご報告します

セグメント別の概況

事業別売上高構成比

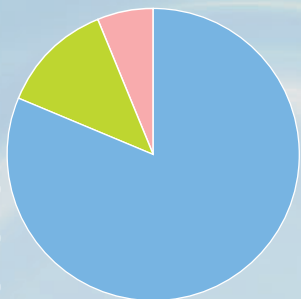
その他	3.8%	(358億円)
ヘルスケア品	3.0%	(279億円)
海外医療用医薬品	31.3%	(2,895億円)
国内医療用医薬品	46.6%	(4,314億円)
医薬品事業	84.7%	(7,846億円)

その他の事業
15.3% (1,412億円)



所在地別売上高構成比

	(億円)	(%)
日本	7,527	81.3
北米	1,160	12.5
その他	570	6.2



連結貸借対照表 (要旨)

単位：百万円

当期
2006年3月31日現在

資産の部

流動資産	958,483
現金及び預金	223,979
受取手形及び売掛金	240,173
有価証券	274,510
その他	220,419
貸倒引当金	△ 599
固定資産	637,643
有形固定資産	289,712
無形固定資産	36,166
投資その他の資産	311,763
投資有価証券	256,338
その他	55,955
貸倒引当金	△ 529

資産合計 **1,596,126**

負債の部

流動負債	236,833
支払手形及び買掛金	65,596
短期借入金	13,547
未払法人税等	26,169
その他	131,519
固定負債	110,154
長期借入金	3,374
繰延税金負債	23,926
退職給付引当金	68,321
その他	14,531

負債合計 **346,987**

少数株主持分

少数株主持分 11,609

資本の部

資本金	50,000
資本剰余金	179,858
利益剰余金	936,513
その他有価証券評価差額金	80,254
為替換算調整勘定	735
自己株式	△ 9,832

資本合計 **1,237,529**

負債、少数株主持分及び資本合計 **1,596,126**

連結損益計算書（要旨）

単位：百万円

	当期 自 2005年4月1日 至 2006年3月31日
売上高	925,918
売上原価	290,735
売上総利益	635,182
販売費及び一般管理費	480,454
営業利益	154,728
営業外収益	10,951
受取利息	3,326
受取配当金	1,995
その他	5,628
営業外費用	5,964
支払利息	313
たな卸資産処分損及び評価損	1,587
その他	4,064
経常利益	159,714
特別利益	6,890
特別損失	29,712
税金等調整前当期純利益	136,892
法人税、住民税及び事業税	54,207
法人税等調整額	△ 5,011
少数株主利益	3
当期純利益	87,692

連結剰余金計算書（要旨）

単位：百万円

	当期 自 2005年4月1日 至 2006年3月31日
資本剰余金の部	
資本剰余金期首残高	180,027
資本剰余金減少高	169
資本剰余金期末残高	179,858
利益剰余金の部	
利益剰余金期首残高	956,658
利益剰余金増加高	87,692
当期純利益	87,692
利益剰余金減少高	107,837
利益剰余金期末残高	936,513

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

単位：百万円

	当期 自 2005年4月1日 至 2006年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	132,759
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 39,258
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 50,106
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,793
現金及び現金同等物の増減額	47,188
現金及び現金同等物の期首残高	354,102
連結範囲の変更による減少額	△ 322
現金及び現金同等物の期末残高	400,967

※記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によって得られたキャッシュ・フローは、1,327億円となりました。主な内訳は、税金等調整前当期純利益1,368億円、減価償却費411億円、法人税等の支払額530億円です。

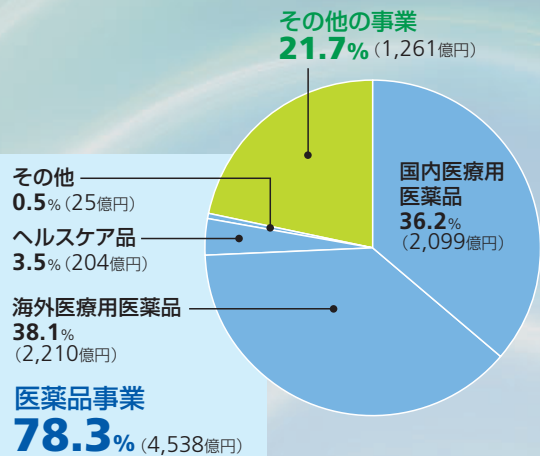
●投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動に使用されたキャッシュ・フローは、392億円となりました。有形・無形固定資産の取得に485億円、子会社株式の取得に102億円支出しました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動に使用されたキャッシュ・フローは、501億円となりました。自己株式を166億円取得したほか、配当金173億円、株式移転交付金171億円を支払っております。

事業別売上高構成比



当期の連結業績につきましては、売上高 5,799 億円（前期比 1.3% 減）、営業利益 783 億円（前期比 7.8% 減）、経常利益 821 億円（前期比 0.4% 減）、当期純利益 506 億円（前期比 4.9% 増）となりました。売上高は、血圧降下剤**オルメサルタン**（米国製品名：**ベニカー**、日本・欧州製品名：**オルメテック**）が日米欧とも大きく伸長し、最主力品の高脂血症治療剤**メバロチン**の国内外の減少や、腎性貧血治療剤**エスポー**、白血球減少症治療剤**グラン**及びアレルギー性疾患治療剤**アレジオン**の販売提携先への返還、非医薬品事業子会社の連結除外による影響などを補い、微減収にとどめることができました。

営業利益は、研究開発費の増加等により前期比 7.8% の減益となりましたが、営業外損益の改善により経常利益はほぼ前期並みとなりました。

当期純利益は、固定資産売却益が減少したこと等により特別損益の純損失額は増加しましたが、税負担率の低い米国子会社が大幅な増益になったことにより、前期比 4.9% の増益となりました。

資産関連

単位：百万円

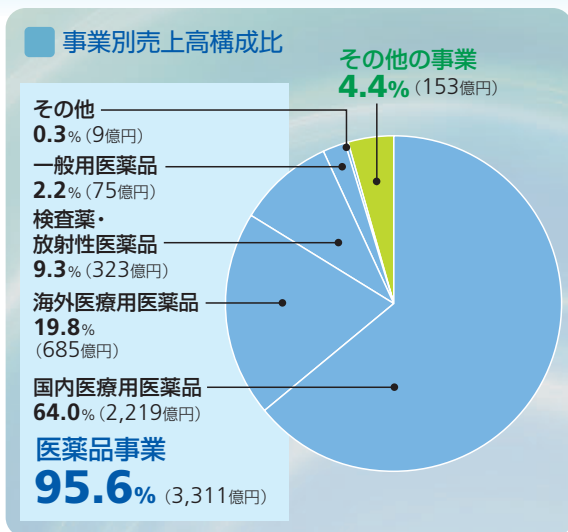
	当期 2006.3.31 日現在
流動資産	598,238
固定資産	366,150
流動負債	147,475
固定負債	79,326
少数株主持分	23,870
株主資本	713,715
総資産	964,389

損益関連

単位：百万円

	当期 2005.4.1～2006.3.31
売上高	579,949
売上原価	198,263
販売費及び一般管理費	303,350
営業利益	78,335
経常利益	82,164
税金等調整前当期純利益	70,457
当期純利益	50,627

ご参考 第一製薬株式会社の概況



当期の連結業績につきましては医薬品の有効性と安全性に関する情報提供を基本とした適正使用の推進に注力し、市場の拡大に努めました結果、国内医療用医薬品の増収や合成抗菌剤**レボフロキサシン**原薬の輸出増に加え、抗血小板剤**プラビックス**の製造販売承認に伴う一時金収入の寄与もあり、売上高は、3,464 億円（前期比 5.5% 増）と増収となりました。利益につきましては、グローバル研究開発の進展や三共株式会社との経営統合準備に関わる費用増を、増収と第一ファルマテック株式会社の稼働等による原価低減で吸収し、営業利益は 760 億円（前期比 35.7% 増）、経常利益は 779 億円（前期比 36.0% 増）と、大幅増益となった結果、三共株式会社との経営統合に伴う特別損失を計上しても当期純利益は 374 億円（前期比 0.6% 増）と前期実績を上回ることができました。これらの結果、売上高・営業利益・経常利益・当期純利益いずれも史上最高を記録しました。

資産関連	単位：百万円
	当期 2006.3.31 日現在
流動資産	310,772
固定資産	286,929
流動負債	85,305
固定負債	30,827
少数株主持分	385
株主資本	481,181
総資産	597,701

損益関連	単位：百万円
	当期 2005.4.1～2006.3.31
売上高	346,447
売上原価	92,190
販売費及び一般管理費	178,169
営業利益	76,087
経常利益	77,929
税金等調整前当期純利益	66,813
当期純利益	37,409

次期の業績の見通しについて

売上高

8,650 億円

営業利益

1,080 億円

経常利益

1,150 億円

当期純利益

470 億円

次期の見通しにつきましては、国内外ともに厳しい市場環境が続くものと予想されますが、第一三共グループではマーケティング・フォースを結集し、市場におけるプレゼンスの確保と収益基盤の強化を図るとともに、一層の経営の効率化を引き続き推進してまいります。

売上高 につきましては、国内における薬価改定、米国における高脂血症治療剤**プラバスタチン**の特許期間満了、さらには非医薬品事業の再編など減収要因を抱え極めて厳しい環境を迎えます。しかしながら、国内医療用医薬品市場での卓越した営業力を活用し、血圧降下剤**オルメテック**、高脂血症治療剤**メバロチン**、広範囲経口抗菌製剤**クラビット**など最重要品目への販売促進活動を強化し、さらに本年5月に発売しました前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤**ユリーフ**の円滑な市場浸透を図ってまいります。海外医療用医薬品市場では資源の重点投入により血圧降下剤**ベニカー**（北米）・**オルメテック**（欧州）の拡大に取り組んでいくとともに、提携先との協力体制を緊密にし、**プラバスタチン原体**、合成抗菌製剤**レボフロキサシン原薬**などの主力品に引き続き注力してまいります。ヘルスケア事業においては、三共株式会社と第一製薬株式会社のヘルスケア事業を分離統合し、またゼファーマ株式会社の全株式を取得したことにより、ヘルスケア事業の

基盤を拡充させてまいります。以上の状況をふまえ、売上高は6.6%減の8,650億円を見込んでおります。

利益面 につきましては、研究開発への重点的かつ継続的な資源投入、海外販売基盤強化などの費用、2007年4月の完全統合に向けての経営統合関連費用発生を見込んでおりますが、第一三共グループ各社におきまして進めている構造改革、業務改革を継続推進し、原価低減、経常経費抑制を徹底し、収益水準の確保と経営の効率化に努めてまいります。また、2007年3月末までに非医薬品事業のグループ外での完全自立化を引き続き進めてまいります。以上の状況をふまえ、営業利益は30.2%減の1,080億円、経常利益は28.0%減の1,150億円、当期純利益は46.4%減の470億円を見込んでおります。

なお、海外子会社の業績の換算に用いる次期為替レートは、1ドル=115円、1ユーロ=135円を前提としております。

次期の配当金予想 につきましては、業績予想が減収減益の厳しい見通しであります。株主資本配当率を5%とする中期目標に向けて安定的な増額を図る基本方針に則り、年10円増配の1株当たり60円とさせていただきます。

将来予測表記に関する特記

本事業報告書における将来の予測等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断や仮定によるものであり、リスク及び不確実性が含まれております。従って実際の業績等は、予測数値とは異なる結果となる可能性があります。

企業インフォメーション

■ 商 号

第一三共株式会社
(英文：DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)

■ 設 立

2005年9月28日

■ 事業内容

医薬品事業を営む子会社及びグループ経営管理等

■ 本社所在地

〒103-8426
東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号

■ 従業員数

76名

■ 役 員

(2006年6月29日現在)

代表取締役会長	森 田 清
代表取締役社長	庄 田 隆
取 締 役	永 迫 弘 幸
取 締 役	池 上 康 弘
取 締 役	采 孟
取 締 役	杉 村 征 夫
社 外 取 締 役	仁 平 園 雄
社 外 取 締 役	西 川 善 文
社 外 取 締 役	矢 部 丈 太 郎
社 外 取 締 役	杉 田 力 之
常 勤 監 査 役	和 田 耕 三
常 勤 監 査 役	井 上 敦 郎
社 外 監 査 役	島 田 馨
社 外 監 査 役	樋 口 公 啓

■ 事業所（グループ）

研究拠点
■ 東京都（品川区）
■ 東京都（江戸川区）
■ 第一アスピオファーマ（株）（大阪府三島郡）

営業拠点
■ 全国
■ 全国

生産拠点
■ 小名浜・平塚・小田原・大阪
■ 第一ファルマテック（株）（大阪・静岡・秋田）

循環器
■ メパロチン（高脂血症治療剤）
■ オルメテック（血圧降下剤）
■ リバロ（高脂血症治療剤）
■ エースコール（血圧降下剤）
■ カルブロック（血圧降下剤）
■ バナルジン（抗血小板剤）
■ アーチスト（高血圧・狭心症・慢性心不全治療剤）
■ コバシル（血圧降下剤）
■ サンリズム（不整脈治療剤）
■ ハンブ（急性心不全治療剤）

感染症
■ バナン（抗生物質製剤）
■ カルベニン（抗生物質製剤）
■ クラビット（広範囲経口抗菌製剤）

その他
■ クレメジン（慢性腎不全用剤）
■ ロキソニン（鎮痛・抗炎症・解熱剤）
■ ファスティック（血糖降下剤）
■ ジルテック（アレルギー性疾患治療剤）
■ モービック（非ステロイド性消炎・鎮痛剤）
■ オムニパーク（X線造影剤）

■ 三共株式会社

■ 第一製薬株式会社

第一三共株式会社をもっとご理解いただくために

今後の予定

2006 年度第 1 四半期決算発表

2006 年度中間決算発表

中期経営計画発表

2006 年度第 3 四半期決算発表

2006 年度決算発表

株主の皆様に対しまして、私ども第一三共株式会社について、もっとご理解いただくために、事業報告書、ホームページ (<http://www.daiichisankyo.co.jp/>) において、開示内容の充実やわかり易い表記に努めております。



2006 年 8 月発行予定の英語版及び日本語版アニュアルレポートを同月からホームページに掲載します。

IR 公表資料

株式情報

最新財務指標

ディスクロージャーポリシー

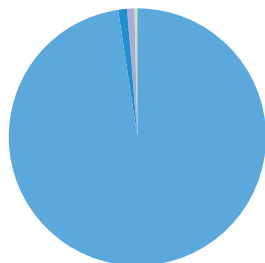
- わが国を代表する真の「グローバル創薬型企業」として、広く社会から信頼されることを目指し、株主・投資家の皆様をはじめとする国内外におけるあらゆるステークホルダーの皆様が当社グループの実態を正確に認識・判断できるよう情報開示の充実に努めます。
- 透明性、公平性、継続性を基本に、証券取引法及び証券取引所の定める適時開示規則に準拠した情報の開示を行うほか、当社グループの理解のために有効と思われる情報につきましても、タイムリーかつ積極的な情報開示に努めます。
- さまざまな情報伝達手段を活用し、より多くの投資家の皆様によりわかり易い情報開示を行うよう努めます。
- 常に株主・投資家の視点に立ち、迅速、正確かつ公平な情報開示を適切に行えるよう社内体制の整備・充実に努めます。

株式について

株式の状況 (2006年3月31日現在)

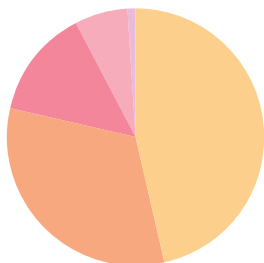
■ 発行可能株式総数	2,800,000,000 株
■ 発行済株式の総数	735,011,343 株
■ 単元株式数	100 株
■ 株主数	63,819 名

株主別分布 (名)



■ 個人その他 :	62,289 (97.60%)
■ その他の法人 :	699 (1.10%)
■ 外国法人等 :	596 (0.93%)
■ 金融機関 :	185 (0.29%)
■ 証券会社 :	49 (0.08%)
■ 自己株式 :	1 (0.00%)

所有株式数別分布 (千株)



■ 金融機関 :	340,953 (46.39%)
■ 外国法人等 :	236,737 (32.21%)
■ 個人その他 :	100,836 (13.72%)
■ その他の法人 :	49,037 (6.67%)
■ 証券会社 :	7,410 (1.01%)
■ 自己株式 :	38 (0.00%)

大株主

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	55,883,800	7.60
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	48,316,400	6.57
日本生命保険相互会社	41,839,182	5.69
ザチェースマンハッタンバンク エヌエイ ロンドン エスエル オムニバス アカウント	15,945,752	2.17
株式会社三井住友銀行	13,413,368	1.82
ステートストリートバンクアンドトラスト カンパニー 505103	12,833,867	1.75
株式会社三菱東京 UFJ 銀行	9,468,983	1.29
東京海上日動火災保険株式会社	9,328,109	1.27
株式会社みずほコーポレート銀行	8,591,876	1.17
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート 銀行口再信託受託者資産管理サービス信託	8,497,706	1.16

お問合せ先

株式に関するお問合せは、下記株主名簿管理人までお願いいたします。

フリーダイヤル **0120-232-711**

なお、株式に関するお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未済株式買取・買増請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、次の三菱 UFJ 信託銀行の電話及びインターネットでも 24 時間承っております。

フリーダイヤル **0120-244-479** (本店証券代行部) **0120-684-479** (大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

「株券等の保管振替制度」をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
	※当社の配当金受領方法は、郵便振替支払通知書によるお支払いのほか、銀行預金口座または郵便貯金口座への振込を選択できます。
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
	※単元未満株式の買取請求・買増請求の手続きは、株主名簿管理人へお申し出願います。 (株券等の保管振替制度をご利用の株式会社については、お取引先の証券会社でお手続きください。)
公告掲載URL	http://www.daiichisankyo.co.jp/ 当社の公告は電子公告により行います。但し事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
上場証券取引所	東京・大阪・名古屋 各証券取引所 第1部
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
同 取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店

株主様向け
アンケート

株主の皆様のお声を お聞かせください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4568

携帯電話からもアクセスできます



QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本事業報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2006年8月31日まで)です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問合せ「e-株主リサーチ事務局」
TEL: 03-5777-3900 MAIL: info@e-kabunushi.com



第一三共株式会社

〒103-8426 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号

<http://www.daiichisankyo.co.jp/>

〈お問合せ先〉

コーポレートコミュニケーション部

TEL.03-6225-1126 FAX.03-6225-1132



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用しています



この報告書は、環境に優しい大豆油インキを使用しています。